

兵庫県議会議員

春名哲夫

県政報告

第2号

■発行日 平成24年1月13日

■発行者 春名哲夫



★10月23日 防災センターで県政報告会を行いました！！
「参議院議員 片山さつき先生」も
講演に来てくださいました！！

1. 豊岡市 697.66km²
2. 宍粟市 658.60km²
3. 美方郡 610.08km²
4. 神戸市 552.26km²
5. 姫路市 493.28km²



豊岡市に次ぐ2番目の面積を有しています



片山先生のほか、他の国会議員の先生とも連携して政策を行っております



350人以上の方がお越しくださり期待の大きさを痛感しました

就任から半年が経ちますが、今も毎日皆様からお預かりした思いを胸に日々一生懸命取り組んでおります。

現在の日本社会には、先行き見えぬ不安から、深い閉塞感が漂っております。一部景気に回復の兆しが見えますが、東日本大震災や福島第一原発の事故の影響で経済の回復は思うように進んでおらず、デフレ克服の目的は未だに立っておりません。

そんな中、わが身を顧みずに被災地で救助・復興支援に取り組む人々の「絆」の強さに改めて感銘を受けるとともに、私たち自身ができること、人々との繋がりを大切にし、思いを一つにして取り組む姿勢を私自身が行動していなければならないと感じております。

今回、十月に県政報告会を行うのにあたり、改めて、国、県、地方の連携の大切さを市民の皆様にもご理解いただきたく、国会議員の片山さつき先生に講演をお願いしたところ、快くお引き受けいただき、先生自ら電車ではるばるこの宍粟市までお越しいただきました。

講演の中では、私のことを「てっちゃん」と呼ばれ、私が政策に掲げております総合病院の改革等についてもたくさんのご助言を下さりました。

片山先生に限らず、国や県や地方の壁、あるいは政党や会派の枠も越え、同じ思いの人々が協力して地域を良くしていくんだという考えの人々と、私はこれからも協力し取り組んでまいりたいと思います。

兵庫県政において課題は山積みです。私たちは、少子高齢化により社会構造が変化していく現代において、時代の潮流と新しい課題を的確にとらえ、良識ある政策実現に努めなければなりません。まずは、行政構造改革推進条例に基づき、全庁あげて事務事業等の総点検からはじめ、それぞれの地域に合った兵庫の未来図をつくりあげていく必要があります。そのためには、井戸知事や他議員と協力し、今後も全力で取り組んでまいります。

2008年末の統計で兵庫県内の医師は人口10万人に対して220.4人であり全国平均は224.5人です。
 地域別では北播磨で160.7人、丹波地域で160.6人
 西播磨では148.1人です。
 中でも宍粟市、主に宍粟総合病院の医師不足は重要な問題です。

医療

6月の私の一般質問で、「長期的な医師の確保について」知事に投げかけたところ、井戸知事は、「有識者による検討会を県独自で立ち上げ、検討を始めました。」と回答してくださいました。その結果、少しずつ新たな取り組みが行われ始めました。

宍粟総合病院が臨床研修病院に認定

これまで、宍粟総合病院は、研修医が来たくても受け入れることのできない病院であったことはご存じでしょうか？
 臨床研修医は、国の基準をクリアし、国から指定を受けた病院でなければ、研修医が希望しても受け入れることができない仕組みになっているのです。
 県議会議員として就任した6月の一般質問で私が重要課題として取り上げた「医師不足の解消」のため、まず就任後できることからと思い、県・国と病院との間の橋渡し役として奔走し、また国会議員の先生などにもご尽力頂き、病院関係者の必死の努力もあって、昨年九月十四日、ついに、宍粟総合病院は、臨床研修病院として新たに指定を受けた全国九か所の病院の一つに入ることができました。
 大きな第一歩です！
 しかし、先の県政報告会で片山先生もご助言くださいましたが、本当に大変なのはこれからです。実際に受け入れることができるのは、医師免許の取得時期等の関係で平成二十四年度からとなります。また、実際にどれだけの研修医に来てもらえるか、そして研修を終えた後病院に残ってもらえるかは、病院の設備や医療環境、指導医の技量や症例数など宍粟総合病院がどれだけ整備された魅力ある病院になれるかにかかっています。
 今回のこの大きな第一歩を二歩三歩と進めていくために、今後も

病院そして県・市との間に立ち密に連携をとりながら全力で取り組みます。



宍粟総合病院

ドクターヘリの第三の拠点への要望



ドクターヘリ

先般、神戸新聞一面で取り上げられた「ドクターヘリ」がどのようにつながっているかご存知でしょうか？
 現在は、豊岡、神戸をそれぞれ拠点としてドクターヘリは運航されていますが、兵庫・京都・鳥取

の三府県にわたり運航されている豊岡拠点の運航エリアには、宍粟市は入っておりません。また、神戸拠点においては、神戸市の防災ヘリ二機と兵庫県の防災ヘリ一機が常時運航しておりますが、宍粟市をカバーしているのは、その内の一機のみです。
 救急医療の体制として、道路が十分に整備されている地域においては、ドクターカーという選択肢もありますが、郡部・離島を多く含む西播磨地域においては、今後ドクターヘリはなくてはならないものになってきます。

兵庫県では、豊岡、神戸に次ぐ第三の拠点を現在検討しております。候補地は、加古川と姫路です。平成二十五年三月に、新たに救命救急センターが開設される姫路の新日鐵広畑記念病院に先駆け、県立加古川医療センターには、既に第三次救命救急センターが整備されており、新たな基地は加古川が有力となっております。しかし、加古川が基地となった場合、宍粟市の一部が運航エリアに含まれないため、私は何とか基地を姫路に配置してほしいと現在も必死の要望を続けております。

これらの要望も、私一人の微力では効果が少ないため、姫路市の五島県議や北野県議の協力を得て、西播磨県議十四名の連名をもって、さる十二月十四日井戸知事に申し入れを行いました。宍粟市においても、岡田議長に議会としての要望を出していただくようお願いしており、姫路市役所とも連絡を取り合い、方針が決定される今年の夏頃まで、何とか精一杯主張して

いきたいと思えます。



申し入れを行う県議（知事の左が春名）

兵庫県地域医療活性化センター

兵庫県では、これまで深刻な医師不足が生じている地域に県が採用した医師を派遣する制度がありました。この五年間で派遣された医師の数は、わずか十六人です。これらの活動をもっと推進していくために、このたび、神戸大学の協力を得て若手医師のサポートなどを含めた総合的な医師確保のための組織が整備されました。

株式会社設立 「ひょうご粒子線メディカルサポート」

兵庫県は、がん治療に効果の高い粒子線医療の普及発展に寄与するため、三菱電機ほか民間四社と株式会社を設立しました。
 場所は、全国シェアの約36%を占める治療を行っているテクノの県立粒子線医療センター内にあります。

東日本大震災 被災地調査

十一月十七日から十八日にかけて、岩手県大船渡市、陸前高田市、気仙沼市、宮城県三陸町を訪問し、地震津波発生から八ヶ月の被災状況や復旧状況を調査しました。

テレビや新聞などの報道以上に、ビルの上に船が乗っている光景など、見るもの、聞くこと全てに衝撃を受けました。仮設住宅で生活されている方々にお話しをお伺いしたときも「市役所に尋ねたら、県に言ってくれ、県に言ったら、国に言ってくれ、とタライマワシにされた」と耳を疑うようなお話でした。

私は、国・県・市が思い切った都市計画や具体的な復興プランを早急に示し、市民の方々の不安を一日でも早く取り除いてあげる責務が行政にはあると思います。



11.18 荒廃した海岸（宮城県）

災害は他人事ではありません。宮城県においても山崎断層を抱える以上、いつ何が起ころかわからないのが現状です。

私たちは、阪神淡路大震災の経験と教訓から新しい防災の仕組みを築いていく必要があります。

いざというときに、医療機関や警察、消防を含む行政機関が連携して即座に対応できる仕組みをつくっていくためにも、私は、病院や警察関係の方々との人間関係も日頃から大切にし、意見交換等も行ってまいります。

積み重ねた人のつながり「絆」が、行政には不可欠です。

警察部会で 県警本部を調査

過日、警察部会で、芦屋市の警察学校と県警本部を調査しました。災害や犯罪などへの対応など、警察組織の力量は、県民・市民が安心安全な生活を送るうえで重要な要素です。

警察学校では徹底した訓練と教育を受け、正義と使命感を身につけます。又県警本部の鑑識技術の高さにも驚かされました。

発隊式でもすばらしい警察官が高い技術をもって私たちの宮城県民の安全な生活環境を維持していただいておりますに感謝申し上げます。私達も法と秩序を守りますと、連携体制を再確認いたしました。



11.27 宮城県年末特別警戒発隊式



現地踏査

平成24年度 当初予算編成に対する重要政策提言

私たち議員団は、行財政構造改革を念頭に置き、知事に対して、予算編成に関する多くの政策を提言しております。その一部ご紹介させていただきます。

（予算に係る議会は、二月十七日、三月二十二日予定）

- 地域の活力の増進
- 地方分権の推進
- 子供を安心して生み育てられる環境づくり
- 障害者の自立に向けた支援策の推進
- 医療の確保と健康づくりの推進
- 食糧自給率の向上に向けた農業施策の推進
- シカ等の有害鳥獣対策の推進
- 森林の保全・県産木材の利用の促進
- 県内建設業者の健全育成
- 地域と一体となった警察活動の展開 など

県道養父宮栗線現地踏査

十月十一日、一宮市民局にて、県道養父・宮栗線の改良について地元の方々より陳情を受け、現地踏査いたしました。

電車がなく車社会しか考えられない宮栗市にとっては重大課題であり、緊急性の高い道路から少しずつ確実に整備していかねばなりません。宮栗市と他市にまたがる県道の整備についても、多くの地域から要望が寄せられており、できる限り自分の足で現場を確認するようにしています。

その道路を使われている人の不便さを私自ら体感することで、その緊急性がよくわかり、道路改良の必要性の判断材料になると考えます。

道路の整備については、他市関係機関とも協議し、協力体制のもと取り組んでまいります。

JC 議員連盟主催 中学生議会開催

八月二十二日、県議会本会議場で県下八十七名の中学生が将来を語りました。私は井戸知事の後ろに座り中学生からの質問に答える立場でした。

- 質問は、
- 姫路市の中学生は 姫路に観光を呼ぶ方法は？
- 宝塚市の中学生は 交通安全に関する意識を高めるには？

など、それぞれ住んでいる地域の課題を的確に提案していました。次世代を担う若者の堅実さに誇りと期待を抱きました。今回は宮栗市の中学生の参加を期待いたします。



知事の後席が春名



中学生議会全体の様子

★兵庫県の財政状況 (H22年度決算より)

Table with 5 columns: 区分, H.22年度目標値①, H.22年度決算②, 差②-①. Rows include Primary Balance, Real Public Debt Ratio, etc.

実質公債費比率ワースト5 将来負担比率ワースト5

- 1位 北海道 (24.1%)
2位 徳島県 (21.2%)
★3位 兵庫県 (21.0%)
4位 岐阜県 (19.6%)
5位 富山県 (18.2%)
※都道府県平均 (13.5%)
★1位 兵庫県 (350.2%)
2位 北海道 (330.2%)
3位 岩手県 (286.1%)
4位 茨城県 (280.3%)
5位 新潟県 (274.6%)
※都道府県平均 (220.8%)

プライマリーバランス

809億円黒字 (財政フレームにおける目標値:454億円黒字)
地方税、地方交付税など一般財源が増加したことにより県債管理基金活用額が減少したため、目標値より355億円改善し、809億円の黒字となった。

実質公債費比率

ア 単年度 19.8% (財政フレームにおける目標値:23.1%)
イ 3カ年平均 21.0% (財政フレームにおける目標値:22.4%)
県債発行利率の確定に伴い、公債費が減少したこと等で、実質公債費比率(単年度)は目標値に比べ3.3ポイント改善し19.8%となった。
3カ年平均では、目標値の21年度(23.1%→22.2%)及び22年度(23.1%→19.8%)決算値を反映した結果、1.4ポイント改善し21.0%となった。

県債残高 3兆2,975億円 (財政フレームにおける目標値:3兆3,533億円)

県債残高(臨時財政対策債及び減収補填債を除く)は、21年度の経済対策にかかる繰越事業量が見込みより増となり21年度中の発行額が減少したこと等で、目標値より558億円の3兆2,975億円となった。

将来負担比率 350.2% (財政フレームにおける目標値:383.8%)

22年度の県債発行額が見込みより減少したことによる県債残高の減及び、地方税、地方交付税などの一般財源が見込みより増加したことに伴う県債管理基金残高の増等により、目標値より33.6ポイント改善し350.2%となった。

経常収支比率 94.5% (財政フレームにおける目標値:99.6%)

地方税、地方交付税などの一般財源が増加や人件費等の減により、目標値より5.1ポイント改善し、94.5%となった。

Calendar table for September 1st to 23rd with event descriptions.

Calendar table for October 1st to 28th with event descriptions.



春名哲夫の活動日誌(9月～11月)

事務所のご案内

〒671-2576
兵庫県宍粟市山崎町
鹿沢237-5 (HTOビル2F)
TEL.0790-63-0770
FAX.0790-63-0760
E-mail info@harunatetsuo.jp (春名直通)
office@harunatetsuo.jp (事務局)
URL http://www.harunatetsuo.jp/

